

乗務員が救命処置学ぼう

豊橋鉄道

利用者の万一に備え実施

豊橋鉄道豊橋市南松山町、水野忠之社長は8日、同市大山町の豊橋ハートセンター(鈴木孝彦院長)で、心肺蘇生(そ)生法や自動体外式除細動器(AED)の使用法など救命講習会を受けた。

(星野のりこ)

参加したのは同社の電車、バスなど現場で働いている運転手や車掌、駅員ら男性乗務員を主に50余人。この人たちは日ごろ、大勢の乗客たちと接することから、乗車中に

2台の奇難を受けけるのを前に使用法を学んだ。初めにビデオやスライドを見てから、鈴木院長があいさつ。「救命は一分一秒が大事。救急車が来るまでに心臓マッサージや、AEDを使って蘇生補助すれば90%は助かる。乗務員全員がこれを覚え、すべてのバスにA

EDを設置してほしい」と強調した。

また、今年4月、同センター前のバス停で倒れていた57歳男性の大変な救助ケースを話した。発見された時、時間がたっていたため、鈴木院長があらゆる蘇生法をしたが反応なし。もうダメと思われたが、補助循環装置やカテーテル治療を行ったところ反応を示し、息を吹き返した。

こんな事例は全国でも希少ケースという。その人は今月から職場に復帰、元気に働いていると

いう。専門病院前で倒れ命に取り組んだ迅速な対応という運の良さ、診療処の成果と話した。講習会では杉浦武治同

センター救急救命士の指導で、2種類のタミー人形2体を使い、3人1組で心臓マッサージやAED操作にチャレンジ。皆、真剣な表情で万一に備えるの特訓に励んでいた。



真剣に体験した救命講習会
＝豊橋ハートセンターで